

平成30年(2018年)12月19日(水曜日)

駿河湾フェリー 運営体制27日決定へ 知事「関係市町と連携」

川勝平太知事は18日の定例記者会見で、県が2019年4月に、現在の連航会社から引き継ぐ駿河湾フェリーの運営体制について、27日に県の庁内プロジェクトチーム(PJT)が開く4回目の会議で方向性を示す方針を明らかにした。

運航継続のための新たな体制について県は、株式会社や社団法人、第三セクターなどを選択肢として検討中。どの体制が最適か、駿河湾沿岸3市3町(静岡市、下田市、伊豆市、西伊豆町、松崎町、南伊豆町)と協議している。知事は「フェリー航路はふじのくにの宝。後世に残すべく、関係市町と連携しながら利用促進に取り組む」と強調した。

清水港(静岡市清水区)と土肥港(伊豆市)を結ぶ現航路については「土肥港をもう少し活性化しないといけない。(就航先として)松崎(新港)も土肥に劣らず面白い。いろんな可能性がある」との考えを示した。田子の

浦港(富士市)の活用を求める意見があると指摘した。県交通基盤部は取材に対し、松崎新港へのフェリー就航について「具体的な検討に入っていない」と説明。一方で「フェリーの接岸は可能だ。現在のフェリー1日4便のうち、1便を松崎と結ぶことなどを今後、考えたい」とした。

知事会見

静岡県は「翔、国は「傷」。川勝知事は今年最後となった18日の定例会見で、1年を漢字一文字で振り返ってほしいとの質問に対し「しょう」という同音異義

18年の漢字

語を2枚の色紙に書き込んだ。本県について、ひじを負傷しながら米大リーグで新人王に輝いた大谷翔平投手を引き合いに「本県も(台風24号の)災害に見舞われたが、こども医療費助成では(静岡、浜松西)政令市が対象を高校生まで拡大す



2018年を漢字で振り返る川勝平太知事 18日午後、県庁

県は「翔」、国は「傷」

「言葉より行動」静岡市長に注文 静岡市の田辺信宏市長が14日の定例記者会見で「知事との信頼関係を取り戻す」などと語ったことについて、川勝知事は「もし何か改めることがあるならば、言葉ではなく、行動で」と注文した。田辺市長は14日の記者会見で「今年やりきれなかったのは、川勝知事との信頼関係を取り戻すこと。来年こそ連携していきたい」と述べた。

静岡市の市民文化会館の複合アリーナ化構想が白紙に戻る見通しになったことを巡っては、県などとの連携不足に問題があったとの認識を示し「自業自得ではないか。前もって一緒に話していれば、こんなことにならなかった」と突き放した。

三島駅前再開発 反対胸に市政を
市長選豊岡氏3選で
川勝知事は駅前再開発事業の是非が争点になった三島市長選で、事業の推進を訴えた現職の豊岡武士氏が3選を果たしたことを受け「高層マンションを造ることに対し、反対している人がいると胸にたたき込んで市政を進めてほしい」と注文を付けた。

豊岡氏の得票数を、事業の見直しを訴えた新人2候補の得票の合計が約4千票上回ったことを指摘。投票率が49・83%だったことにも触れ「5割に達しなかったことは誠に残念」と述べた。

川勝知事は、同事業でのタワー型マンション建設に否定的な見解を示している。

と決意してくれた」と指摘。県公立大学法人顧問の本庶佑京都大特別教授のノベル医学生理学賞受賞や天皇、皇后両陛下の訪問にも触れて「充実した1年になった」とし、「翔」がふさわしいとした。

国を「傷」とした理由については、文部科学省の汚職や財務省の公文書改ざんを挙げ「天下に恥をさらした」と述べた。